峰高だより

発行：京都府立峰山高等学校広報担当　所在地：京都府京丹後市峰山町古殿 1185 番地
Tel:0772-62-1012　Fax:0772-62-1013　www.kyoto-be.ne.jp/mineyama-hs/

キャリア教育講演会

11 月 10 日（木）、全校生徒を対象に、キャリア教育講演会を実施しました。講師は元報徳学園高等学校長で、現在ライフハーモニー教育研究所所長・位田隆久氏で、「自律と共生～三つの目と恕（思いやり）～」と題してお話をいただきました。お話は多岐に及びましたが、骨子は次の通りです。

以前の日本人には「お天道様が見ている」という言葉があり、自分、他人と並んで人間の行動を律する規範となっていたが、現在はそれらの目を失っている。「内なる天の目（心眼）=third eye」を持ち、自らに厳しく生きることが大切である。

「積小為大」という言葉があるが、イチローがそうであったように、日々の小さな努力を怠らず、自分に与えられた天分を発揮することが大切である。平凡を非凡にするものは日々の努力である。

論語の中で孔子は、「人間にとって一番大切なものは恕（思いやり）である」と述べている。『サラダ記念日』に「寒いねと言えば　寒いねという人のいる暖かさ」という歌があるように、思いやりを持ちながら共に生きる力を持つことが人にとって幸福なことである。

最後に位田先生のハーモニカの伴奏で「ふるさと」を合唱しました。「ふるさと」は人間の原点であり、"理想郷"を示したものだ、と先生はおっしゃりたかったのでしょう。

芸術鑑賞

今年の芸術鑑賞は４人の落語家に来ていただきました。桂三若さんは学校を舞台にした今風な落語。祭好きの先生が 10 人以上の生徒を休ませて学級閉鎖にしようというお話。桂かい枝さんは動物園を舞台にした英語落語。簡単な英語と身振りを使い檻の中のトラに扮した人間を演じられました。いくつもの人形を身につけた笑福亭鶴笑さんのパペット落語は『立体西遊記』。狭い座布団の上を転げ回って孫悟空の活躍を熱演されました。かい枝さんと鶴笑さんは海外でも人気のある落語家です。最後は笑福亭福笑さんの古典落語。漢字の読み方をネタにした奉公人のお使いのお話でした。落語を聴きながら様々な光景や人間模様を想像し大いに笑わせていただきました。狭い座布団の上で巧みな言葉と身振りを使い、聴く人の想像力を膨らませ楽しませてくれる落語。日本の古典芸能の一つとしての伝統と共に、新しい世界を切り開こうとする落語家さん達の熱意を感じた落語会でした。

生徒の感想

●落語というものを人生で初めて聞いたのですがとても面白かったです。涙が出るくらい笑いました。落語という芸術に触れられて良かったです。

●落語は古典落語のようなものがほとんどだと思っていたけれども自由な感じのものもあって楽しかった。

読書週間

11 月 8 日（火）から 11 日（金）の４日間、全校一斉の「読書の時間」を設けました。始業前の 15 分間、教室で好きな本を読むという取組です。いつもなら 1 時間目の授業の声が聞こえてくる時間に学校中がシンとしているので、とても不思議な感じがしました。最近は生徒も勉強やクラブが忙しく、なかなか本を読む時間がとれないようなので、今回の取組が少しでも読書を楽しむことの手助けになっていればうれしいです。

１年生進路学習

１年生２学期の進路学習は、「自分の職業について調べ・考える」ことに取り組みました。

10 月には各自が希望する仕事について、仕事内容、適性や能力、職業に就くために必要な進路、仕事のやり甲斐などについて調べ、職業に対する理解を深めました。そして 11 月には、職場経験者による職業分野別の講演を聴き、職業理解学習のまとめとしました。講師の案内やお礼の言葉については生徒諸君がしっかりこなし、講師の先生方からもお褒めの言葉をいただきました。今回の進路学習を通して「将来の夢に向けての一歩」を進めてくれたものと期待しています。

生徒の感想

●自分は、機械系の道に進むつもりだが、機械・電機・電子・情報・建築等それぞれに必要な資格の話や、それぞれにどんな仕事があるかなどを詳しく説明してくださって、とても参考になった。

●看護師の国家試験に受かったら看護師になれて終わりじゃなくて、まだそこからなれる看護師の種類がいろいろあって、終わりのない職業だなと思いました。看護師はなるのも大変だ、なってからも大変で責任ある仕事ですが、その分達成感ややり甲斐のある良い仕事だと思いました。

●短大では、幼稚園用と保育士用の２つの資格が取れること。子どもの個性を伸ばしたり思いやったりすることももちろん大切だが、教育の意義や保育の役割に関する正確な知識を得たり、困難な事態を処理できる能力の方が保育士さんにとって必要なんだということが分かった。

●販売は簡単に思っていたけれど、本当は難しい仕事であることが分かりました。この講義で、仕事選びは自分にとって本当に大切なので、しっかり考えて就職したいと思いました。

産業工学科の生徒が大学見学に行きました

12 月７日（水）に産業工学科の１・２年生 12 名が大阪工業大学の見学に行きました。空間デザイン学科では、平面的なものから椅子やドアノブ、日用品、建物内部や空間までもデザインすると聞き、想像を超える作品を作る大学生を見て驚きの声を上げていました。ロボット工学科では、数十台の様々なロボットたちの登場に今度は機械系統の生徒達の目が光り、大学生に一通り操作の方法を教わった生徒達は奪い合うようにコントローラーを取り合いました。機械工学科では、鳥人間コンテストで優勝した機体や風洞実験装置などを見学しました。漠然と頭の中にあった大学に対しての意識が変化し、間違いなく自らの進路決定の大きな材料となりました。

生徒の感想

●大学の先生に会う前は、すごく難しいことを説明されたりして、分からないだろうと思っていたけど、案内の先生や学科紹介の先生もすごく分かりやすく、モノラボでのロボットの体験もすごく楽しかった。そして一番驚いたことは、敷地の広さと建物の高さ、そして設備が充実していることで、一番高い６号館の最上階からの景色もすごかったです。見学に行って進路の参考になりました。

●ロボットなんてあんまり興味なかったのに、見学をしてからロボットの動きはどのような仕組みなのか、どのようにバランスをとっているのかなど、様々な疑問ができロボットのことをもっとよく知ってみたいと思いました。

他にも空間デザイン学科とか都市デザイン学科など、デザインの学科にも興味をもちました。

進路速報 - 国公立大学推薦合格　四大 11 名　短大２名！　私大推薦入試も始まる！ -

◆国公立四大（11 名）◆
横浜国立大（経営）
金沢大（人間社会）
京都工芸繊維大（工芸科）
岡山大（工）、（経済）
高知大（人文）
群馬県立女子大（国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ）
京都府立大（文）
高知工科大（ｼｽﾃﾑ工）
和歌山大（経済）
京都教育大（教育）

◆国公立短大（２名）◆
秋田公立美術工芸短大（産業ﾃﾞｻﾞｲﾝ）
島根県立大学短大部（総合文化）

◆私立大学（一部）◆
同志社大
立命館大
関西学院大
関西大
明治大
京都産業大（5名）
龍谷大（5名）
佛教大（２名）
近畿大（10 名）
東京農大
京都外大（２名）
大阪経大（３名）
関西外大（３名）

◆短大・専門学校（一部）◆
華頂短大（２名）
京都文教短大（３名）
龍谷大短大
関西外大短大
京都府立看護学校（２名）
京都府医師会看護専門学校
大阪市立デザイン教育研究所

<12 月 16 日現在>

国民文化祭で峰高生が活躍

国民文化祭は、日ごろ文化活動に励む人々が全国から集結し、発表などを通して交流を深めるとともに、開催地独自の文化を全国に発信する「国内最大の文化祭典」です。第 26 回となる本年は、京都府内すべての市町村で 10 月 29 日から 11 月６日にかけて約 70 のフェスティバルが開催されました。

京丹後市主催事業としては、文芸分野で「小町ろまん『短歌大会』」、生活文化分野で「シルクファッションフェスティバル」そしてシンポジウム「健康長寿」の３つが開催されました。以下に国民文化祭での峰高生の活躍を紹介します。

小町ろまん「短歌大会」　10 月 30 日（日）

本校からは 435 名もの生徒が応募しました。その中で以下の 11 名の作品が、応募者総数 21,513 首の中から入選しました。

「ラ変格ありとりはべりいますかり必死に覚える高一の夏」　山本昇平（１年３組）
「歴史上残ることでもないけれど君の生まれ日僕には大切」　太田実里（１年５組）
「宿題が溜まりに溜まった週末に現実逃避ずかさ鳴らすギター」　辻隼志郎（１年６組）
「暮れの志士に心を動かされ私も探す己の誠」　木村ひとみ（２年１組）
「空見上げ君の心を考える君の心が雲の形に」　東　将司（２年３組）
「帰り道いつも見慣れたこの町もいつか離れる日が来るのかな」　田中遥菜（２年３組）
「ビー玉をのぞくと見える風景はキラキラ光るあの夏の日々」　中田和花（２年３組）
「里枯にらくがきされた先生は一日だけ消さずに残す」　中西祐希（２年５組）
「宇宙人超能力者未来人そんな人種が集まる部室」　尾崎都朗（２年６組）
「荒波に凛々しく制す屏風岩父と重ねるその立ち姿」　中井美穂（３年２組）
「雨が止み雲の切れ間に光りたる天よりかける天使のはしご」　増田祐也（３年２組）

開会式・オープニングフェスティバル　10 月 29 日（土）

４名の茶道部員が、国立京都国際会館に来場された皆様に、おもてなしの心を込めて呈茶をさせていただきました。

シルクファッションフェスティバル　11 月３日（木）

本校からは 17 名（１年生 12 名・２年生５名）が、オープニングを飾るセレモニーとして、京丹後市の市歌をアレンジした「よさこい踊り」の演舞を丹後文化会館で披露しました。10 月中旬から京丹後市よさこい連の方々からの御指導の下で猛練習を重ねた努力の成果もあり、見事な演舞に会場から大きな拍手をいただきました。

また、当日はオープニングフェスティバルに続いて茶道部６名が、来場者への呈茶に大忙しの一日になりました。

アカデミックミネ　～１年生リーディングコンテスト～

11 月 18 日（金）に１年生リーディング・コンテストが行われました。これは、５編の英文の題材から好きな物語を選び朗読し、発音、流暢さ、表現力を競うものです。英語の授業の各講座から１～２名の生徒が予選を通じて選ばれ、16 名が参加し、アルキメデスや利口な商人、障害を持った少女の話など、「語り部」となり、朗々と聴かせてくれ、聴く人達を魅了しました。結果は平井葵さんと増田祥子さんがともに１位、３位は田中優基くんでした。

音読は最強の英語の学習方法です。生徒の皆さんには、話の内容を感情を込めて読みながら、英語のリズムを楽しんで欲しいと思います。

アカデミックミネ　～丹後再発見の旅～

11 月 19 日（土）に地理歴史科・理科の２教科合同の行事として「丹後再発見の旅」を実施しました。丹後で生まれ育った峰高生に、普段見過ごしがちなこれら貴重な丹後の宝物を知ってほしい、そして将来その価値を全国に発信してほしいとの思いから企画したミニ巡検です。あいにくの荒天の中、教員・生徒合わせて 12 名が参加し、網野銚子山古墳、赤坂今井墳丘墓など著名な史跡と、琴引浜にある列島形成期の地層の露頭や竹野の安山岩の貫入地点など、知る人ぞ知る見所を回りました。

雨のため一部の見学地を割愛せねばならなかったのは残念でしたが、「今日一日でずいぶん丹後に詳しくなったね！」とみんな口々に話しながら峰高で解散。満足できる取組でした。

アカデミックミネ　～アートツアー 美術館に行こう！～

12 月 10 日（土）、美術科企画「アートツアー ～美術館に行こう！～」を実施し、生徒・教員合わせて 13 名が参加しました。当日は好天に恵まれ、道中、紅葉も楽しみながら、大阪の国立国際美術館と京都の大山崎山荘美術館を訪れました。国立国際美術館ではピカソやダリ等有名な画家の絵画から、現代の最先端アートまで幅広い内容の展示を鑑賞しました。大山崎山荘美術館では山荘の趣ある佇まいとともに、印象派の巨匠モネの作品を中心とした展示を楽しみました。それぞれの感じ方で鑑賞を楽しみ、また互いに感想を交流し合い、充実した時間を過ごすことができました。

美術部の活動

「光の射す場所」

第 31 回近畿高等学校総合文化祭滋賀大会に吉竹永さん（２年）が「光の射す場所」（油絵Ｆ50）を出品しました。第 28 回京都府高等学校総合文化祭には油絵 11 点、デザイン作品１点を出品し、山下芳美さん（２年）の「つながる」（デザインＢ２パネル）がデザイン　テーマ部門にて優秀賞を受賞しました。美術部は今後、２月に開催される峰高展にむけて、制作を進めていきます。

男子バスケットボール部がベスト 16 ！

両丹ベスト４となり、第 31 回京都府高等学校バスケットボール選手権大会兼第 42 回全国高等学校選抜優勝バスケットボール大会京都府予選ウィンターカップ京都大会に出場しました。初戦で優勝候補の洛南高校と対戦し奮闘しましたが、152 対 32 という結果で敗れました。点差は開きましたが、全国区のチームを相手に堂々としたプレイをすることができました。その結果、京都でベスト 16 となりました。

リレーメッセージ

高き理想を求めて

「NEVER GIVE UP」

みなさんこんにちは。保健体育科の田邉です。今みなさんは夢を追いかけていますか？何かにチャレンジしていますか？何か夢中になっていることはありますか…？些細なことでもなんでもいいんですが、何か一つ始めてみましょう。

私は今まで、自分が望んでいるように、自分が思っているままに歩んできました。それは進学も就職も私が好きなバスケットボール人生もです。ここでは詳しくは述べませんが、そこで培ったことは一つ「最後まであきらめないこと」です。この言葉に気が付けたのは、何かが達成できた時です。最後に私の思いも含めて、好きな文章を載せておきます。

「できるかできないかではなく、やりたいかやりたくないか。」一歩を踏み出す勇気は、「今、やりたい。」という自分の気持ちを信じることから生まれる。やりたいことは、実現できる。すべては自分の心次第。夢を叶えるためには、自分のやりたいことを言葉にして伝え、語り続けること。そして、諦めないこと。最後にすべてに感謝して、「ありがとう。」と言えるように！！

保健体育科　田邉紗矢香